

# 5 スマートシティに関連したデータ戦略の 取組について

*Japan.*

# 5. スマートシティに関連した データ戦略の取組

2022-03-16

## Digital Agency

# 包括的データ戦略の概要 〔令和3年6月18日閣議決定〕

■ 2020年末にデータ戦略タスクフォースとりまとめで示された課題について実装に向けた検討項目を整理

**ビジョン** 現実空間とサイバー空間が高度に融合したシステム（デジタルツイン）により、新たな価値を創出する人間中心の社会

データ戦略のアーキテクチャ		第一次取りまとめ	包括的データ戦略 検討項目								
人材・セキュリティ	戦略・政策	データ戦略の理念とデータ活用の原則の提唱	<ul style="list-style-type: none"> <li>データ活用原則 (①データがつながり、使える、②勝手に使われない、安心して使える、③みんなで協力する)</li> <li>行政における<b>データ行動原則の構築</b> ①データに基づく行政(文化の醸成)、②データエコシステムの構築、③データの最大限の利活用</li> <li><b>プラットフォームとしての行政</b>が持つべき機能</li> </ul>								
	組織 <small>行政 民間</small>	社会実装・業務改革 デジタルツインの視点で ビジネスプロセスの見直し	<ul style="list-style-type: none"> <li>デジタル庁の策定する情報システムの整備方針にデータ戦略を反映</li> </ul>								
	ルール <small>データ ガバナンス 連携 ルール</small>	トラストの枠組み整備 トラストの要素（意思表示の証明、発行元 証明、存在証明）を整理	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>トラスト基盤の構築</b>（認定スキームの創設） 【デジタル庁を中心として関係省庁が協力して、2020年代早期の実装を目指す】</li> <li><b>トラスト基盤構築に向けた論点整理</b> (トラスト基盤の創設[各プレイヤーの役割の明確化]、認定基準、国際的な相互承認 等)</li> </ul>								
	連携基盤 (ツール)	プラットフォームの整備 分野共通ルールの整理 分野毎のプラットフォームにおける 検討すべき項目の洗い出し (官民検討の場、ルール、ツール等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>データ連携に必要な<b>共通ルール</b>の具体化、<b>ツール開発</b></li> <li>データ流通を促進・阻害要因を払拭するためのルールの整理 (意図しないデータ流通・利用防止のための仕組みの導入/ログイン防止 等) 【デジタル庁と知財本部事務局は、2021年末までにガイドライン策定】</li> <li><b>重点的に取組むべき分野(健康・医療・介護、教育、防災等)のプラットフォーム構築</b> 【関係省庁はデジタル庁と協力して、2025年までに実装を目指す】</li> <li>データ取引市場の<b>コンセプト</b>の提示</li> </ul>								
	データ	ベース・レジストリの整備 オープンデータ データマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>ベース・レジストリの指定</b>（法人3情報、地図情報、法律・政令・省令、支援制度 等）</li> <li>ベース・レジストリの整備に向けた課題の抽出と解決の方向性の検討 【デジタル庁と関係省庁は協力して、2025年までの実装を目指す】</li> <li>データマネジメントの強化/オープンデータの推進</li> </ul>								
	利活用環境	引き続き検討すべき事項 データ利活用の環境整備 民間保有データの 活用の在り方 人材/国際連携/インフラ	<table border="1"> <tr> <td>デジタルインフラ</td> <td>・通信インフラ（Beyond 5G）（2025年大阪・関西万博にて成果提示）、計算インフラ（富士等コンピュータインフラの民間利用）、半導体産業基盤の強化、データ取扱いのルール等の一体的整備</td> </tr> <tr> <td>人材・組織</td> <td>・データ戦略に必要な人材像、データ整備・AI活用を含むデータ戦略責任者の設置</td> </tr> <tr> <td>セキュリティ</td> <td>・セキュリティバイデザインの推進、安全安心なサイバー空間の利用環境の構築</td> </tr> <tr> <td>国際展開</td> <td>・理念を共有する国との連携や様々なフォーラムにおける<b>DFFTの推進</b>（貿易、プライバシー、セキュリティ、トラスト基盤、データ利活用、次世代インフラ） ・G7 DFFTロードマップへのインプット【2023年G7日本会合を見据え成果を目指す】</td> </tr> </table>	デジタルインフラ	・通信インフラ（Beyond 5G）（2025年大阪・関西万博にて成果提示）、計算インフラ（富士等コンピュータインフラの民間利用）、半導体産業基盤の強化、データ取扱いのルール等の一体的整備	人材・組織	・データ戦略に必要な人材像、データ整備・AI活用を含むデータ戦略責任者の設置	セキュリティ	・セキュリティバイデザインの推進、安全安心なサイバー空間の利用環境の構築	国際展開	・理念を共有する国との連携や様々なフォーラムにおける <b>DFFTの推進</b> （貿易、プライバシー、セキュリティ、トラスト基盤、データ利活用、次世代インフラ） ・G7 DFFTロードマップへのインプット【2023年G7日本会合を見据え成果を目指す】
	デジタルインフラ	・通信インフラ（Beyond 5G）（2025年大阪・関西万博にて成果提示）、計算インフラ（富士等コンピュータインフラの民間利用）、半導体産業基盤の強化、データ取扱いのルール等の一体的整備									
人材・組織	・データ戦略に必要な人材像、データ整備・AI活用を含むデータ戦略責任者の設置										
セキュリティ	・セキュリティバイデザインの推進、安全安心なサイバー空間の利用環境の構築										
国際展開	・理念を共有する国との連携や様々なフォーラムにおける <b>DFFTの推進</b> （貿易、プライバシー、セキュリティ、トラスト基盤、データ利活用、次世代インフラ） ・G7 DFFTロードマップへのインプット【2023年G7日本会合を見据え成果を目指す】										
インフラ											

# データ戦略の目指すデータドリブンな社会

必要なデータが簡単に手に入り、  
新サービスをスタートさせやすい

様々なサービスが選択でき、  
暮らしやすい

オープンデータ



データが集中管理され、  
重複投資がなくなる

Digital Twin



社会の維持管理  
コストが減少

+ 民間データ

ベース・  
レジストリ

重要データ

統計

センサー  
データ

データ再利用や自動審査  
が進み、現場が楽になる

1. 安心してデータやサービスを使用できるトラストの確保、ルールの整備

• 認証・アクセス管理 + 真正性

2. 見つけやすくつなげやすいデータ連携の仕組み

• カタログ、コネクタ、取引市場

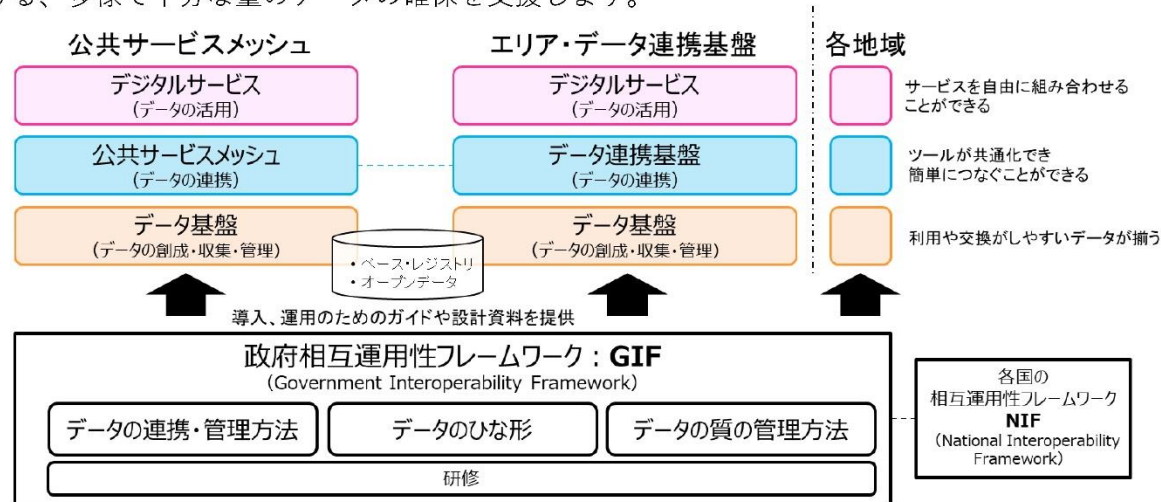
3. 多様で、品質が確保され、十分な量のデータの供給

• 設計（データモデル）→データ整備（プロセスの中で品質を確保）、オープンデータ

相互運用性  
(インタオペラビリティ)  
の確保

# 政府相互運用性フレームワーク：GIF

- デジタルガバメント推進標準ガイドラインのもと、みんなが利用しやすく、安心して使えるデータの設計が進むよう、フレームワーク（GIF）を提供。各エリアは、このフレームワークを使ってデータを整備することで、拡張性が高く、連携が容易なデータを設計することができます。
- また、社会のデータを国全体で整備をするベース・レジストリを推進するとともに、各自治体が進めるオープンデータの取組を支援。これらを通じて、各エリアにおける、多様で十分な量のデータの確保を支援します。



## GIF (Government Interoperability Framework) の提供

### データのひな形の提供

- ・建物、施設、設備、イベント等のデータのデータ項目を定義

### データの質の確保（最新で正確なデータを実現）

- ・データの最新性、網羅性、正確性等に関する基準を明確化しデータの質の改善をはかる仕組みを定義

## 多様なデータの確保

ベースレジストリの推進（社会の基本データを国全体で整備）

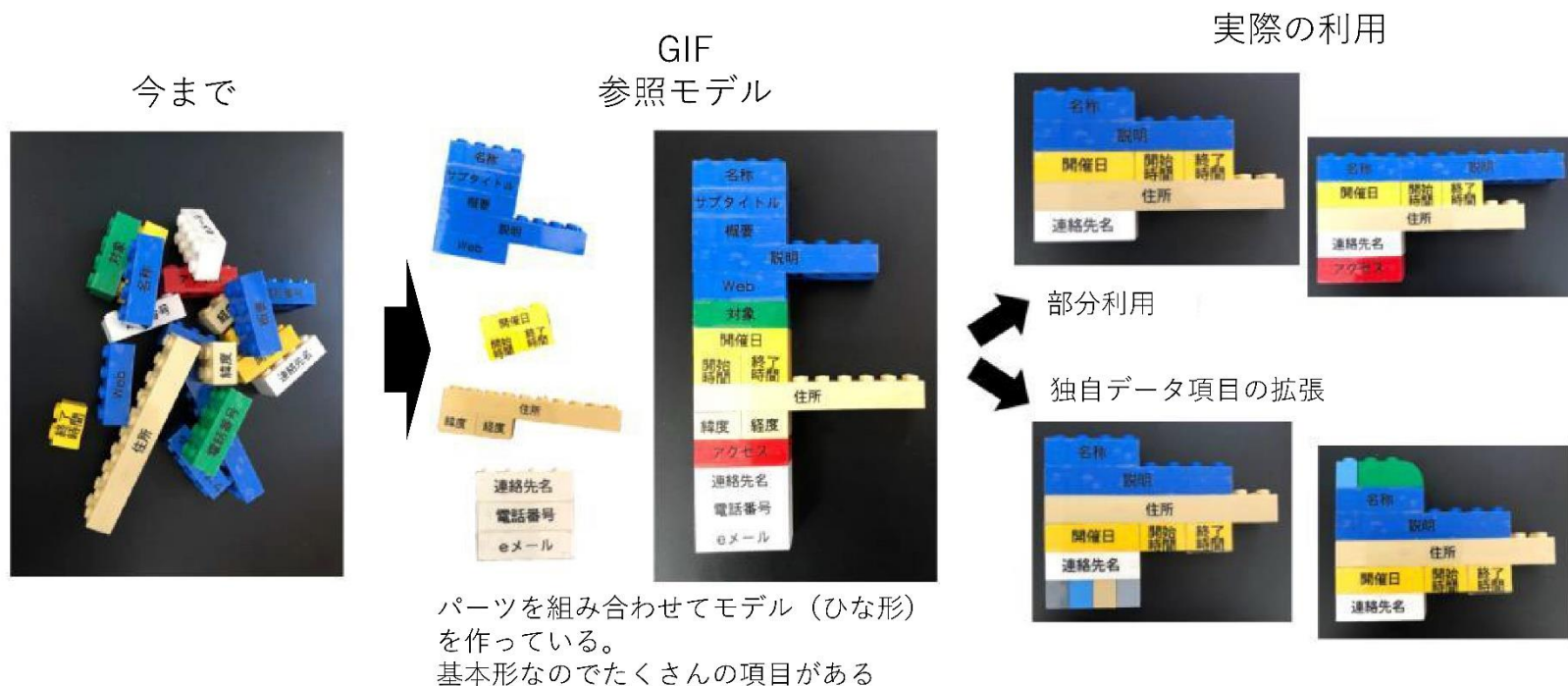
文字、法人、アドレス、公共施設、支援制度、イベント等

オープンデータの推進（各自治体が進める取り組みを国が支援）

医療機関、避難場所、公衆トイレ等

# GIFの利用方法例 1

- 参照モデル（ひな形）なので、必要な部分を選択したり、独自拡張して使用できます。



## GIFの利用方法例 2

- 既存システム内のデータは従来のままで、**インタフェースで対応することも可能**です。



## データ戦略活用のメリット

自地域で作ったサービスやアプリケーションを他地域に展開できる

他地域で作ったサービスやアプリケーションを自地域に展開できる

同じインタフェースを持っている地域と広域連携できる

分野横断のサービスが検討しやすくなる

その他の効果

- ・ データ設計が効率化できます → コスト減
- ・ 質のよいデータ設計ができます → 活用範囲の拡大

※ルール、ツール等の支援も強化していきます